

生活管理システム

グループ4

想定ユーザ(ペルソナ)

対象者①

職業：情報系学部の大学教授

特徴1：研究室の管理、講義、研究が主な仕事

特徴2：研究室の消費電力が多くて困っている

対象者②

職業：情報系学部の大学生

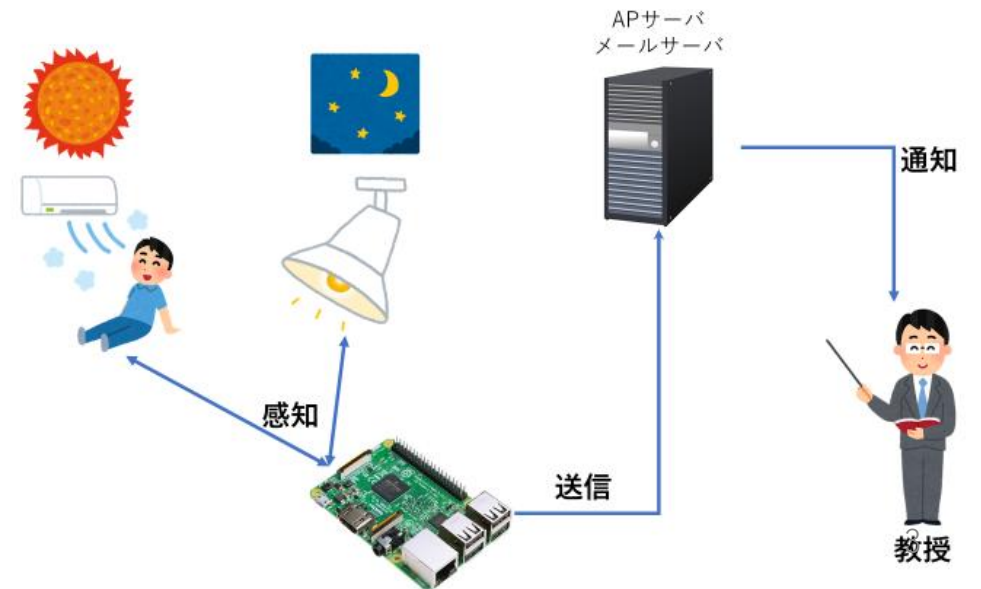
特徴1：よく夜中に研究室に残って作業している

特徴2：不規則な生活で自己管理が苦手

提案するシステムの概要

日中(昼間)と、夜中(夜間)で機能を切り替え

- 昼間
不快指数 (室温・湿度)の測定と通知機能
- 夜間
室内灯の使用状況の確認と通知機能



システム概要（昼間）

- 目的

 - 研究室の快適度UP

 - エアコンの使い過ぎによる電力の無駄遣いを防止

- 方法

 - 室内の不快感指数を測定

 - LEDおよびブザー、場合によってはメールで通知

- 条件

 - 1. 室内が不快であると感じられる場合

 - 無理のある環境での作業を防止し作業効率UP

 - 2. 室内が快適である場合でも、室温が適温でない場合

 - エアコンの無駄遣いを防止することによる節電効果

システム概要（夜間）

- 目的

夜は研究室に残らないことを推奨

- 方法

光センサーで蛍光灯の点灯を判定
LEDおよびブザー、メールで通知

- 条件

- 19時以降：30分毎に電子ブザーで警告
 - 22時以降：学生・教員に1時間毎にメール通知・警告
（6時に夜モード解除）
- ※それぞれの時間指定は設定可能

システムを導入した結果…

対象者①(教授)は…

- 夜に生徒が残ることが減った！
- 電気代も減った！

対象者②(学生)は…

- 研究室に朝に来て夜中まで残らないようになり、自己管理ができるようになった！